

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

尾道市立栗原小学校 9教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	58	64	86	74	69	91	442	32	474
学級数	2	2	3	3	3	3	16	6	22

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道德	総合	学活	外国語 活動
週時数	6	1	2.9	5	3	1.7	1.7	3	1	2	1	1
4年1組 (担任：A)	A	A	A	A	A	推進	A	A	A	A	A	A
4年2組 (担任：B)	B	B	B	B	B	推進	B	B	B	B	B	B
4年3組 (担任：C)	C	C	C	C	C	推進	C	C	C	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：D)	D	D	D	D	専科	推進	D	推進	D	D	D	D	D
5年2組 (担任：E)	E	E	E	E	専科	推進	E	推進	E	E	E	E	E
5年3組 (担任：F)	F	F	F	F	専科	推進	F	推進	F	F	F	F	F

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：G)	G	G	I	H	専科	推進	専科	推進	G	G	G	G	I
6年2組 (担任：H)	G	H	I	H	専科	推進	専科	推進	H	H	H	H	I
6年3組 (担任：I)	G	I	I	H	専科	推進	専科	推進	I	I	I	I	I

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

- ① 6年生3学級において、授業交換に取り組み、学校全体で教科指導を行った。
- ②③ 担任・専科・教科担任制推進教員が全ての学級で指導をし、情報共有を綿密に行った。
- ④ 6年生3学級において、授業交換に取り組み、教材研究の時間を確保した。



<成果>

- ① より系統性を意識した単元や授業展開を工夫することができるようになり、授業の質が向上した。国語科や算数科の思考・判断・表現の設問において、1学期末テストより2学期末テストの85点以上の児童の割合が増加し、基礎学力の向上が一部見られた。

【85点以上の児童の割合】

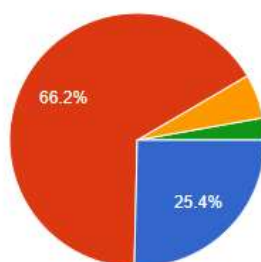
	国語科		算数科		社会科		外国語		理科	
	知 技	思判表	知 技	思判表	知 技	思判表	知 技	思判表	知 技	思判表
1学期末	76.9	51.6	73.6	31.8	76.6	81.0	93.4	90.2	55.9	63.4
2学期末	92.3↑	68.1↑	60.0↓	68.8↑	72.7↓	65.9↓	82.4↓	49.4↓	48.9↓	53.2↓
差	15.4	16.5	-13.6	37.0	-3.9	-15.1	-11.0	-40.8	-7.0	-10.2

授業方法やICT活用方法等の交流を行うことにより、指導力の向上につながった。また、多くの教員が関わることで児童の主体的な学習意欲を引き出すことができた。児童一人一人の理解度を把握しながら授業改善を重ね、質の高い授業を目指すことができた。



【児童アンケート結果より】

「教科担任制で学ぶことで、授業がよく分かるようになりました。」



肯定的評価：91.6%

【児童の声】

- ・その教科の得意な先生で習うから分かりやすい。
- ・それぞれ教えてもらう教科が違い、学び方も違って色々な考え方ができる。
- ・様々な解き方や方法を教えてくれるから。

前回アンケートより 肯定的評価 15.5 ポイント UP

- ② 学年全体の児童の実態を把握しやすくなり、複数の教員で定期的に情報共有したことをもとに、よりきめ細やかな個別の対応をとることができた。

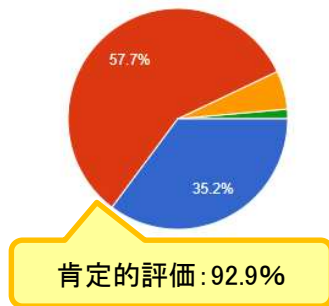
(暴力事案 R5 4件→R6 9件 生徒指導事案 R5 16件→R6 22件)

※ 細やかな実態把握、対応を行った結果、件数は増加している。

- ③ 中学校の教科担任制に不安を持つ児童が減少し、スムーズな移行が期待できる。

【児童アンケート結果より】

「中学校での教科担任制に対して、不安がなくなりました。」



【児童の声】

- ・中学校も同じだと思えると安心できたから。
- ・小学校のうちからやっていると中学校での不安がなくなる。

前回アンケートより 肯定的評価 19.1 ポイント UP

- ④ 教員の授業担当時数が減ったことで、授業がない空き時間が増え、それを活用し、教材研究や成績処理等を行うことができた。その結果、業務改善につながった。

<課題>

- ① 担当外の教科の授業力向上に対する不安がある。
- ② 配慮が必要な児童に、担任がすぐに対応することが難しい。
- ③ 中学校教員の児童の実態把握が十分とは言えない。授業の面での小中連携を充実させる必要がある。
- ④ 時間割の編成・調整に時間を要する。特に行事の際の時間割調整が複雑である。

<対策>

- ① 他教科を担当する教員の授業を参観する。授業研究（他教科）の指導案検討やシミュレーションを通して、授業力を身に付ける。
- ② 時間割ホワイトボードの活用により、担任の所在を一目で把握できるようにしている。そのことにより、すぐに対応できる空き時間の教員が一目で把握でき、対応にあたることができた。また、専科の授業を活用し、生徒指導事案に対し、担任が対応しやすくなるような時間割を作成した。
- ③ 小中連携をさらに綿密にし、中学校教員が小学校で授業を行う回数を増やすことで、小学校の児童に対する実態把握につなげた。
- ④ 時間割ホワイトボードを活用し、今年度は3週間分の週案を立てたことにより、見通しをもつことができるようになった。
今年度のノウハウを該当学年の教員に引き継ぐ。